

紀尾井 だより

Kiei News

5/6

May / June

2025

Vol.171



井上八千代の会

紀尾井ホール室内管弦楽団
第143回 定期演奏会

連載

「邦楽を楽しもう!」
邦楽のレシピ
『三昧線』
樂器編1

「クラシック音楽のテーマに基づく3話」
メンデルスゾーンと自然をめぐる3つの話



日本製鉄 紀尾井ホール

身体と精神の芯の強さを今に受け継ぐ

京舞井上流 井上八千代



「舞踊」という言葉が、異なる二種の“ダンス”で構成されていることをご存じでしよう

か。「日本舞踊」と括られ

ますが、「上方の『舞』」と江戸の「踊」は歴史もスタ

イルも異なります。ごく単純化すれば、「踊」は江戸の歌舞伎とともに発展し

た大きな振付や華やかな演劇性が特徴的なダンスです。「舞」の歴史

はより古く、日本の芸能の古層を成す、神々と人間の交感

や祈りを基盤に貴族文化の影響を受けて発展し、様式性が強く抑制された動きに深い精神性を湛えるダン

舞のなかでも、特に上方の遊里と結んで発展したのが上方舞です。座敷の観客の目前で舞うため、大きな装置も派手な衣裳変えもありません。あるのは背景の金屏風 燭台の揺れる炎、地方の弦の音と声、そして舞手の身体。ただこれだけで、他の舞台芸術にはない濃密な美的宇宙を生むのです。

江戸時代に始まった京舞井上流は、上方舞諸派でも独自です。能と縁深く、人形浄瑠璃から人形振りを容れ、舞手

も継承も女性に限られます。そのため男性による振付とは異なる、女性の身体と精神の芯の強さ、崇高さが発露するのも魅力の一つです。

「井上八千代の会」は人間国宝の五世井上八千代、長男の観世淳夫、長女であり後継者である井上安寿子が出演し、流派の至芸を披露します。夫に捨てられた妻の執念を描く「鉄輪」は、井上安寿子の地唄舞、観世淳夫の仕舞で上演されます。井上八千代は、義太夫「萬歳」と京舞「水鏡」を舞います。「萬歳」は、京の新年を寿ぎ縁起のよい風物を織り込んだ淨瑠璃の語りと洗練された身体技法が対話し、華やいだ空気を立ち上げます。「水鏡」は、世俗の女性の恋心がテーマですが、揺れる心や水のイメージを琵琶湖に重ねて湖畔の名勝、近江八景（堅田、石山、瀬田、栗津、三井、唐崎、矢橋、比良）を詞に入れて世界観を広げます。宮廷文化を起源とする西洋のダンスが一般に歌詞のある音楽を用いないのでに対し、言葉と身体が多様な関係を紡ぐのも日本舞踊の面白さです。

筆者は舞踊を専門としてフランスを中心ivelyエやコンテンポラリーダンスを鑑賞してきましたが、日本舞踊の公演に足を運ぶようになり、西洋と根本的に異なる美学に感銘を受けました。極言すると、西洋の舞踊は人間が中心にあります。バレエが確立した17世紀古典芸術の時代に作られたヴェルサイユ宮殿の幾何学的な庭園、趣向を凝らした噴水に顕著なように、西洋芸術は人間が自然を征服する側面があります。バレエも、音楽を把握し振付を実行する踊り手の理性を示し、神話の表象を借りて王侯貴族の偉大さを示す手段でした。そこでは、生々しい感情も排除されています。

しかし日本舞踊の身体は、自然を從えるのではなく、自然の生命の大きな流れの中にあるのです。舞踊家の一つの身体は、唄が立ち上げる情景や呼び覚ます感情を受け入れ、一曲のなかで心の動きを纖細にたどり、そればかりか他者に変わり景色に変わり、過ぎた時代の魂すら宿します。井上八千代の舞を

観て、筆者は時間の観念も空間の観念も越える魔法のような深い体験をしたことがありました。

「舞によつて、観る方の心に入り込む」と、某所でご本人は語られていました。

この奇跡は、いかに実現されるのでしょうか？明治期に“ダンス”的訳語として作られた「舞踊」という語に慣れた私たちは、舞の美をまだ十分に味わい得ていません。この公演は数百年続く“舞”的本質に触れる最良の機会となるでしょう。

（舞踊評論家、共立女子大学教授）
文／岡見さえ

開館30周年記念公演 井上八千代の会

7/9
㊱
18:30

【出演】 井上八千代、井上安寿子（立方）

豊竹呂勢太夫（淨瑠璃）

鶴澤燕三（三味線）

観世淳夫（仕舞）

片山九郎右衛門（地謡）

渡辺保（聞き手）ほか

【曲目】 義太夫「萬歳」、対談、地唄「鉄輪」
仕舞「鉄輪」、地唄「水鏡」



© Tomoko Hidaki

ピノックらしさが光る、 「ウィーン古典派」を軸に据えた 19世紀の名作選

改めて言うまでもありませんが、トレヴァー・ピノックはエンバロ奏者としてキャリアを始め、指揮者としても18世紀の音楽を中核的なレパートリーとしてきました。指揮台に立つ彼は19世紀以降の曲も積極的にレパートリーに取り入れ、第143回定期演奏会のプログラムにもそれがはつきりと打ち出されています。日本有数の室内管弦楽団との共演で聴くことができる喜びは小さくありません。その理由をここで披露させてください。

メイン曲目、メンデルスゾーンの『イタリア交響曲』、そしてベートーヴェンのピアノ協奏曲第4番は19世紀前半の産物です。ベートーヴェンはJ.ハイドンに師事し、W.A.モーツアルトを尊敬していました。1809年生まれのメンデルスゾーンにとっても「ウィーン古典派」の3人は仰ぎ見るべき存在でした。例えばメンデルスゾーンが『イタリア』を4楽章構成とし、ベートーヴェンが全ての協奏曲を3楽章構成としたことは、明らかにハイドンとモーツアルトが

影響を与えたのは間違いないでしょう。

ただし、19世紀は芸術において「個性」が重視された時代です。先人のレシピをそのまま踏襲する以上に、「独創的」であることが求められました。

ベートーヴェンの場合、先人に劣らない音楽を作るべきという抑圧はかなりのものであったと思います。それを創作力のエネルギーに変換するところが凄いのですが、ピアノ協奏曲第4番は先人を軽々と超えるようなアイディアが満載です。いきなりピアノ独奏で始まるというのが先人になかった発想でした。ピアノ独奏が非常に華やかである点(ドヴガノンのソロに期待!)は、ベートーベン世代の作曲家であれば当然とはいえ、注目に値します。また、3つの楽章が独立しているのではなく、それぞれが強く関連しているという印象を与える点も同様です。

メンデルスゾーンは「ウイーン古典派」に強い関心を持つていました。したがって、その影響を脱して、独創的な音樂を書かねばという気持ちはあつたはずです。『イタリア』は伝統の保持も感

じさせますが、新たな方向性も見られます。特に興味深いのは、明朗快活を繪に描いたような長調の第1楽章とは異なり、最後の第4楽章が情熱的な短調に始まり終わる点。ベートーヴェンの『運命』のような「苦悩から歡喜へ」至る構図とは真逆です。こうした発想をしたメンデルスゾーンに、「ウイーン古典派」を意識しながら独創性を模索した可能性は大いにあるでしょう。

以上に述べてきましたように、ベートーヴェンとメンデルスゾーンの「独創性」は、18世紀の音樂を前提に成り立っているとしても過言ではありません。したがって、ピノックのような指揮者こそ、19世紀音樂の特徴をはつきりと示してくれるのです。

ピノックはチエンバロ奏者としても活動を続けています。その「主戦場」たるバロック音樂は19世紀後半に再評価

7/4
金
19:00

7/5
土
14:00

紀尾井ホール室内管弦楽団 第143回定期演奏会



トrevA·PinocK
© Gerard Collett



アレクサンドラ·ド·ヴガン
© Irina Schymchak

- [出演] トレヴァー・ピノック(指揮)
アレクサンドラ・ド・ヴガン(ピアノ)
紀尾井ホール室内管弦楽団
- [曲目] ラヴェル : クープランの墓
ベートーヴェン : ピアノ協奏曲第4番ト長調
メンデルスゾーン : 交響曲第4番イ長調『イタリア』

の機運が高まりました。フランスも同様です。その土壤からラヴェルの『クープランの墓』が生まれました。第一次世界大戦の死者を悼むために、彼の時代においてフランスの栄光ある音樂史のシンボルであったクープランのチエンバロ演奏のスタイルを借りながら作られた作品です。チエンバロ奏者として豊富な経験を持つピノックらしい選曲ではありますか。7月の定期演奏会はその意味でも注目に値するに違いありません。文／安田和信(桐朋学園大学准教授)

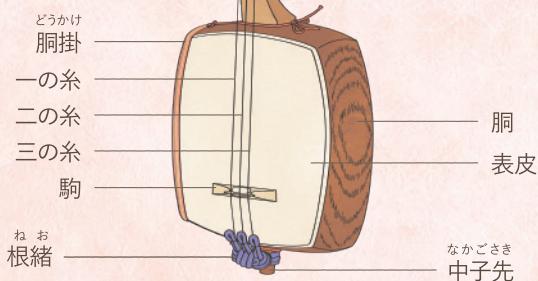
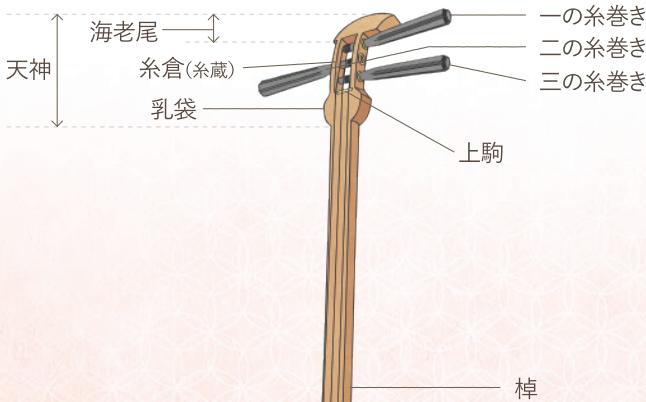
邦楽を楽しもう！

三味線

楽器編 1

邦楽を楽しむための“材料”と“方法”をお届けする新シリーズ「邦楽の“レシピ”」。まずは「楽器編」。日本の楽器の魅力を探ります。第1弾は「三味線」。東京都世田谷区の有限会社 龜屋邦楽器代表で、四代目となる芝崎勇生さんにお話を伺いました。

取材・文／織田麻有佐（邦楽ライター）



硬く重い紅木

三味線の素材は現在、棹は花林・紅木、胴は花林、糸巻きは黒檀・象牙、皮は動物の皮のほか合成皮も開発されています。

花林は比較的安価なため、練習用三味線の棹に使用。硬いほど鳴りが良いということで、花林よりも硬い紅木の棹が演奏家たちに好まれます。製品になってから反ってこないようにと木目が真っ直ぐに通ったものが適しているとされています。また、トチ（=虎斑）^{とらふ}が入ると木目がより美しくなり喜ばれます。木材といつてもとても重く、水に沈みます。

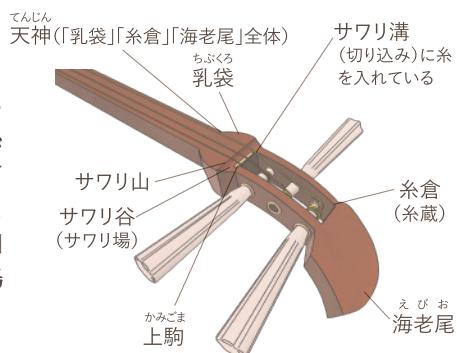
無垢材で消耗品！

棹はヴァイオリンなどのようにニスなどを塗って仕上げるのではなく、砥石で磨いて仕上げた無垢材です。

「カンベリ」といって絃を押されたところが削れてくると、演奏に支障をきたすので、カンナで棹を削って修理します。ギターのように指板があり、それを取り替えればよいというわけではないのです。ですから三味線には寿命があるといつていいくらい

三味線のいのち「サワリ」

三味線で重要なのは、絃を弾いたあとに残るビーンという独特な響き「サワリ」です。二と三の糸は上駒にのせ、一の糸は小さな切り込みにのせてあります。一の糸を弾くと、糸がサワリ山に触れて、複雑な振動がおこります。これを「サワリがつく」といいます。上手く「つく」と、二と三の糸とも共鳴します。金属製のネジを使った「吾妻ザワリ(東さわり)」も考案されています。



有限会社 龜屋邦楽器

オーダーメイドでの三味線を提供。特に長唄東京三味線を多く手掛け、プロ演奏家からの信頼も厚い。

東京都世田谷区宮坂3-12-11

TEL : 03-3429-8389

<https://e-kameya.com/>

職人技の結集！

三味線は、棹は棹師、胴は胴師、皮職人、糸職人などとパーツごとに専門の職人が製作します。亀屋邦楽器ではそれらを仕入れて組み立て、皮を張り仕上げて販売しています。ネジやペグなどは一切使用していません。

「ジャンルによって寸法はだいたい決まっていますが、奏者の手の大きさ、男性・女性、演奏者の好みなどによって棹師に注文を出します。使用する素材、棹の形、海老尾のカーブ、胴内の細工などは、奏者の好みや職人によって異なります。皮の厚みや張り具合も重要です。大事なことは、奏者がどういう音を出したいかということ、そして奏者の好みに沿ったもの、手にあったものを作ることです。(棹の)原木の見極めも我々がします。総合プロデューサーみたいなものです」と勇生さん。

三味線は、各パーツの職人の知恵と技術が集まり完成します。

メンデルスゾーンと 自然をめぐる

3つの話

ライブツイヒを本拠地とします。彼はこれら大都市の旧市街ではなく、中心から多少外れた新興住宅地に居を構えました。古くからの街並みより、緑豊かな郊外を彼は好んだのです。

彼の理想は、疑いなく実家にありました。1825年、メンデルスゾーン16歳の時に、一家が入居したベルリンの邸宅には、樹木が生い茂る広大な庭園があり、夏の晴朗な日々には森林のよう

にくつろぎました。引っ越し後まもない

1826年の夏にメンデルスゾーンが序曲『夏の夜の夢』を作曲したのは偶然ではありません。彼はそこでシェイクスピアの戯曲の世界、すなわち、古代アテネの貴族や職人たちが森に迷い込み、妖精と戯れる夏の夜を追体験したことでしょう。

実は彼は、前年夏にスコットランドを旅しており、序曲『ヘブリディーズ諸島』（フィンガルの洞窟）や『スコットランド交響曲』の着想を得ていました。彼はイタリアにてこれらの作曲を進めようとしたのですが、スコットランドの「霧やメランコリー」の気分に戻ることができなかつたと言います。彼にとつて旅先での気分と作曲は不可分だったのです。

メンデルスゾーンの音楽は、自然や風景を彷彿とさせます。ロマン派の作家のなかでもとりわけ旅を愛し、文学に精通し、自然を愛でた彼は、実生活ではどのような景色を見ていたのでしょうか。

メンデルスゾーンは都会っ子でした。生まれはハンブルク、2歳からはベルリンで育ちました。24歳で音楽家として独り立ちした後は、デュッセルドルフ、

1 ベルリンの夏

2 イタリアの冬

メンデルスゾーンは都会っ子でした。

ベルリンはドイツ北部に位置します。

夏は短く、一年のほとんどは灰色の空に覆われ、長く厳しい冬の寒さが身にし

3 スイスの荒天

1831年夏のスイス旅行にて、メンデルスゾーンは尋常ならぬ悪天候に

見舞われました。大雨により一寸先も見えず、傘は吹き飛ばされ、服はずぶ濡れ。旅程は一部変更を余儀なくされました。時折、晴れ間が見えるものの、異常気象は1か月以上、続きます。大洪水によつて橋は落ち、土砂崩れに強風被害も加わり、道や建物は跡形もなく流れ季節外れの雪も降りました。この時、メンデルスゾーンはゲーテの詩による最初のワルブルギスの夜》の序曲を手がけていましたが、そこで「悪天

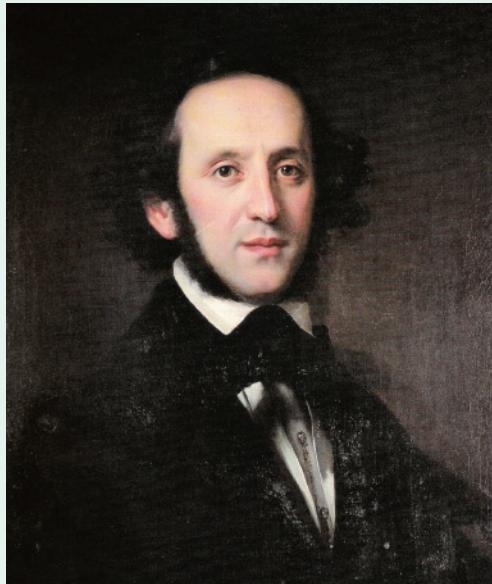
候」の描写に荒天の体験を生かしたようです。

昨年末、この異常気象の原因について新学説が発表されました。なんと、千島列島中部にある新知島(シムシリ島)のザバリツキー火山の噴火が発生源となり、北半球の広域に長期にわたり寒冷と乾燥、そして食糧難が引き起こされたとのこと。日本では天保の大飢饉との関係が指摘されています。

深刻化する地球温暖化を憂いつつ

も、メンデルスゾーン

の創作上のインスピ
レーションとなつた
自然の恵みと脅威に
思いを馳せてみま
しょう。ちなみに、彼
の生きた時代は小氷
河期(15世紀から19世
紀前半頃)末期にあた
ります。



「フェリックス・メンデルスゾーン」エドワルド・マグヌス 1846年

文／星野宏美
(音楽学)

9/15
(月・祝)
14:00

紀尾井ホール室内管弦楽団
第144回定期演奏会
会場:東京オペラシティコンサートホール

[出演] 阪哲朗(指揮)、阪田知樹(ピアノ)、三宅理恵(ソプラノⅠ)、山下裕賀(ソプラノⅡ)
[9/15] TOKYO FM 少年合唱団・[9/16] 大阪すみよし少年少女合唱団(合唱)、紀尾井ホール室内管弦楽団

[曲目] ヴェーバー : 歌劇《オベロン》~序曲
コルンゴルト : 左手のためのピアノ協奏曲嬰ハ調
メンデルスゾーン:劇付随音楽《夏の夜の夢》[序曲付き全曲]

9/16
19:00

紀尾井ホール室内管弦楽団
第144回定期演奏会(大阪公演)
会場:住友生命いずみホール

日本製鉄文化財団の公益事業にご支援いただいている企業および個人の方々です

紀尾井サポートシステム会員（五十音順・「株式会社」等表記及び敬称略）

《特別協賛会員》住友商事／日鉄ソリューションズ／三井不動産／三井物産／三菱商事／三菱地所
《みやび会員》伊藤忠商事／大島造船所／大林組／鹿島建設／商船三井／菅原／住友商事／日本郵船／丸紅／三井住友銀行／三井住友信託銀行／三井不動産／三井物産／三菱商事／三菱地所／メタルワン ほか匿名2社
《ひびき会員》オカムラ／高砂熱学工業／竹中工務店／東京きらぼしファイナンシャルグループ／みずほ証券／山下設計
《みどり会員》青鬼運送／赤坂維新号／今治造船／ヴォートル／エーケーディ／荏原冷熱システム／ザ・キャピトルホテル 東急／三協／清水建設／上智大学／西武リアルティソリューションズ／大成建設／千代田商事／テエイスト・ライフ／東芝ライテック／永田音響設計／ニュー・オータニ／ハウス食品グループ本社／パナソニック／三菱UFJ銀行／三菱UFJ信託銀行／三菱UFJモルガン・スタンレー証券／ミュージション／明治座舞台／ヤマハサウンドシステム／ワークショップ21
《あおい会員》青木陽介／浅沼雄二／淺見 恵／石崎智代／磯部治生／伊藤眞理子／上野真志／馬屋原貴行／江幡 淳／大内裕子／大垣尚司／大久保なほ子／太田清史／大花謙一／小川 保／小倉 ヒロ・ミヒヤエル／糟谷敏秀／片山國正／片山能輔／加藤巻恵／加藤優一／金井俊樹／神川典久／川口祥代／川島知恵／菊池恒雄／木谷 昭／楠野貞夫／栗山信子／河野紗妃／小坂部恵子／斎藤公善／坂詰貴司／坂根和子／佐久間庸行／佐野千紘／佐部いく子／潮崎通康／柴田雅美／清水 正／清水多美子／清水康子／白土英明／新角卓也／鈴木順一／鈴木 幸／鈴木 亮／高下謹亮／高杉哲夫／田中 進／陳 艶君／田頭亜里／中尾武彦／中塚一雄／中西達郎／中野洋子／中村健司／中村昌子／中山昌樹／原田清朗／藤村行俊／北條哲也／堀川将史／牧本恵美子／松枝 力／松尾芳樹／真野美千代／丸井正樹／水口美輝／篆輪永世／宮島正次／宮田宜子／宮武悦子／宮原 薫／宮本信幸／ミューズ M／村上喜代次／村上敏子／持留宗一郎／茂手木優輝／八木一夫／八木晶子／矢田部靖子／山内寿実／山口 彰／山口 聰／横手 聰／吉田季光／吉見 亨／渡邊一夫／渡辺由香里
ほか匿名45名 計244口

(2025年4月1日現在)

特別支援会員（五十音順・「株式会社」等表記略）

アステック入江／五十鈴／NSユナイテッド海運／NSユナイテッド内航海運／エヌエスリース／エヌテック／王子製鉄／大阪製鐵／九築工業／草野産業／黒崎播磨／合同製鐵／鴻池運輸／小松シヤリング／山九／産業振興／三晃金属工業／サンユウ／三洋海運／山陽特殊製鋼／ジオスター／新日本電工／スガテック／大同特殊鋼／大和製罐／高砂鐵工／高田工業所／鶴見鋼管／テツゲン／電機資材／東海鋼材工業／東邦シートフレーム／トピー工業／日亞鋼業／日鉄SGワイヤ／日鉄エンジニアリング／日鉄片倉鋼管／日鉄環境／日鉄ケミカル＆マテリアル／日鉄建材／日鉄鉱業／日鉄工材／日鉄鋼板／日鉄興和不動産／日鉄スチール／日鉄ステンレス鋼管／日鉄精压品／日鉄精密加工／日鉄ソリューションズ／日鉄テクノロジー／日鉄テックスエンジ／日鉄ドラム／日鉄物産／日鉄物流／日鉄プロセッシング／日鉄保険サービス／日鉄ボルテン／日鉄溶接工業／日鉄レールウェイテクノス／日本金属／日本触媒／濱田重工／富士鉄鋼センター／不動テトラ／幕張テクノガーデン／三島光産／宮崎精鋼／吉川工業／ワコースチール

日本製鉄

(2025年4月1日現在)

編集後記

この4月に開館30周年を迎え、紀尾井だよりもデザイン・サイズを一新しました。2025年8月からの休館中は、北海道から九州まで全国9都市で「響き合う和と洋」シリーズ公演を開催、紀尾井ホール室内管弦楽団は東京オペラシティコンサートホールほか4会場で演奏会を開催するなど、精力的に活動を継続してまいります。どうぞご期待ください。

2階 バーコーナー



バーコーナーに開館30周年メニュー「桜の園」が登場!
(7月までの期間限定販売)

六種の和素材が香るプレミアムジンに、桜の花びらをあしらいました。公演の前や休憩時のひとときぜひお楽しみください。

1.31(金) 邦楽 明日への扉 第6回 鶴澤寛太郎(義太夫節)

協力:森永製菓株式会社



人形浄瑠璃文楽・三味線方の
登竜門的な「阿古屋琴責の段」
では、見せ場の太棹三味線、胡弓、箏を巧みに弾き分け、傾城
阿古屋の心情が伝わってくる
演奏でした。

© ヒダキトモコ

2.13(木) ピアノ・トリオ・フェスティヴァル2024-III 金川真弓・佐藤晴真・久末航トリオ

ベルリンで出会った日本の若きスター3人が日本
で初披露!ということで話題を呼んだピアノトリオ。
息のピッタリ合ったアンサンブルで大きな拍手が
客席を包みました。



© 藤坂恵

2.19(水) 音楽でつづる文学9 好色五人女 —八百屋お七—

アンケートより

最初の解説によって、芸能としても
よく理解できた。異なるジャンルに
よる同じテーマ曲を比較できて興
味深かった。



© ヒダキトモコ

2.27(木) 三菱地所 presents 紀尾井 明日への扉 第42回 トリオ・エクス(ピアノ三重奏) 協賛:三菱地所株式会社

現在ベルリンで研鑽
を積む3人。大きなコンサートホールでの
演奏は貴重な機会
とのことでしたが、息
の合ったのびやかな
演奏を披露しました。



© 堀田力丸

3.6(木) 邦楽探検 詞章の謎 File.5 清元「文屋」

前半に清元「文屋」の詞章解説と舞踊の振付解説で作品の理解を深めてから、後半に素踊りと演奏をお聴きいただきました。詞章の意味が分かって観ると、その作品を100倍楽しめます。



© ヒダキトモコ

3.14(金)/16(日) 紀尾井ホール室内管弦楽団 第141回定期演奏会

特別協賛:三井不動産株式会社
協賛:住友商事株式会社 三井物産株式会社 三菱商事株式会社



© 堀内力丸

3.19(水) East meets West アレクサンダー・ガジェヴ&三浦謙司 ピアノデュオ・リサイタル

アンケートより

プログラム構成が素晴らしい! 息の合う者同士でなければできない連弾と二台ピアノの演奏で、ドラマティックな曲目が並び堪能した。こんなコンサートは初めてで感動した。



© ヒダキトモコ

日本製鉄 紀尾井ホール

公益財団法人 日本製鉄文化財団
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町6番5号
TEL. 03-5276-4500(代表)
FAX. 03-5276-4527 <https://kioihall.jp>

公演の
最新情報などは
こちら



主催公演チケットのお申込み

紀尾井ホールウェブチケット
<https://kioihall.jp>

そのほかチケットぴあ、イープラス(クラシック公演のみ)
CNプレイガイド(電話予約:0570-08-9999/10:00~
18:00年中無休)でもチケットを取り扱っています。